

溶連菌感染症

？ どんな病気なの？

溶血性レンサ球菌という細菌よる感染症です。主にのどに感染し、急な発熱やのどの痛みから始まり、舌や全身に発疹が現れます。2歳未満の子どもの感染は少なく、4歳～10歳児になると増加し、何度もかかる場合も。主な感染経路はせきやくしゃみなどで、毎年冬と春から初夏の2回流行します。

流行のピークは
年2回！



溶連菌感染症の特徴

かかりやすい 時期	かかりやすい 年齢	感染経路	感染力	潜伏期間
冬、春から夏	4歳～10歳	飛沫・接触	高	2～5日

発症から完治までの目安

治るまでの目安は21日



3歳以下の乳幼児は発疹や発熱の症状が現れないことがあります。

溶連菌感染症

？ どんな症状がでるの？

2～6日間の潜伏期間を経て、突然発熱とどの痛みが起こります。その後、のどの奥が真っ赤になったり、舌にいちご状の発疹（いちご舌）や手足から全身にかけて細かい発疹が現れます。発疹後は皮膚がめくれることも。そのほか、首のリンパ節が腫れたり、嘔吐や腹痛が起こることもあります。



溶連菌感染症にみられる症状

- ☐ 38度以上の発熱
- ☐ のどの痛み、赤み、腫れ
- ☐ 食べたり、飲んだりができない
- ☐ 手足・足首から全身に赤くて細かい発疹
- ☐ 舌が赤く、いちごのような
ボツボツ（いちご舌）が出ている

上記の症状がみられたら感染の可能性あります！保育園や幼稚園の登園は控え、病院を受診してください。

今すぐ、
受診！



溶連菌感染症

！ 合併症にも要注意！

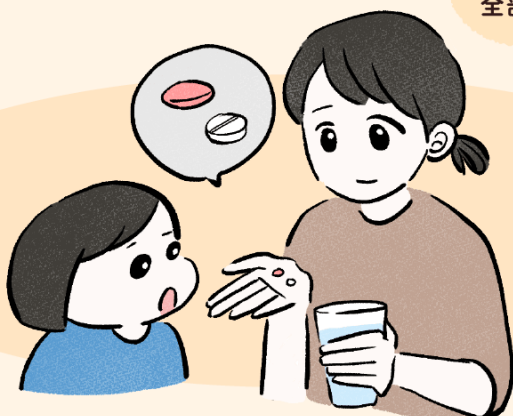
溶連菌感染症は再発を繰り返すと急性腎炎やリウマチ熱などの合併症を起こすことがあります。腎炎は発症後2～3週間くらいで併発する可能性があるのですが、顔や手足のむくみ、尿が出ないなどの症状が現れたらすぐに病院へ。



！ 治療法

溶連菌の感染が判明すると10～14日間分の抗菌薬が処方されます。薬を飲めば熱は1～2日で下がり、のどの痛みや発疹も2～3日で治まります。ただし、それで内服をやめてはいけません。合併症を起こさないためにも、症状が治まった後も抗菌薬はすべて飲み切ってください。発症から2～3週間後くらいに病院で尿検査をし、腎炎を起こしていないことを確認するといいいでしょう。

薬は
全部飲み切って！



溶連菌感染症

🏠 ホームケアのポイント

こまめな水分補給

熱が出ると水分が奪われるので、脱水症状が起こりがち。授乳中の乳児は母乳やミルク、幼児はお茶やぬるま湯、乳幼児用イオン飲料、経口補水液などを少しずつ与えてください。

脱水症には
気を付けて！



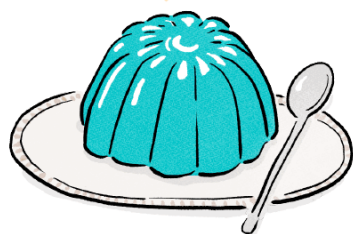
投薬

病院で処方された薬は必ず飲み終えること。症状が改善したからと投薬を勝手にやめると、溶連菌を消滅できずに再発することがあります。

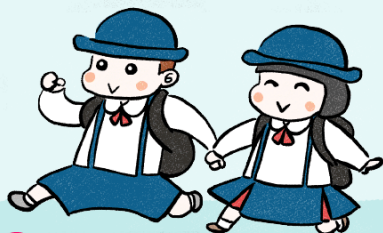
食事

食事は消化がよく、胃の負担にならないものを。またのどの痛みや腫れがあるので、プリンやゼリー、ヨーグルトなど、のどごしのいいものから与えるといいでしょう。

食事は
のどごしを
最優先に！



保育園や幼稚園は
いつから通える？



登園の目安は2～3日後

抗菌薬を内服してから24時間が経過していて、熱も下がっていればOK。

溶連菌感染症



家庭内感染を防ぐためのポイント

溶連菌感染症の主な感染経路は飛沫と接触です。大人も感染する病気なので、二次感染しないようにしっかり対策しましょう。

ウイルスの侵入をシャットアウト！

① 手洗い・うがい

外出先から帰宅後や食事の前は石鹸で手を洗ってください。手に付着したウイルスが食品を介して感染することもあります。手指の消毒には、エタノールが主成分のアルコール製剤も効果的です。アルコール製剤はエタノール濃度が70%程度あると除菌効果を発揮します。

手を拭くタオルなどの共有もなるべく避けて！



② マスク

咳やくしゃみで感染します。マスクを着用して咳エチケットを守りましょう。

③ 消毒

身の回りにあるものを消毒して感染を予防しましょう。日常的に触れるおもちゃやコップ、ドアノブや手すりなどは、アルコールや塩素系消毒剤などでこまめに拭き取ってください。

接触感染を防ぐには消毒も有効！

